

障害・災害対策表	作成日付	更新日付	作成者	承認者
ID:1-3s-00700				

障害・災害対策に対する基本方針		許容停止時間	許容停止時間を越えた場合の影響
1.技術面	<ul style="list-style-type: none"> サーバ障害時に社外への影響が発生する貸出工程業務については、WWWサーバ、APサーバ、DBサーバの多重化により、サービス停止時間の短縮を図る。 消失時の影響を考慮し、テープなどの外部媒体へのバックアップを行う 	システム復旧待機時間 X時間 代替手段実施時の許容停止時間 X営業日以内	<ul style="list-style-type: none"> 1支社1日あたりの平均業務処理量（新設業務は約〇通、改修業務は約〇通）を超えた場合、紙ベースの運用では対応不可 可否判定回答期限の超過 オンライン照会ができないことによる事業者へのサービス低下
2.管理面	<ul style="list-style-type: none"> 復旧までの間、紙ベースでの業務運用を行う 		
3.設備面	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性の高いコンピュータセンターにサーバを集中配置する バックアップデータはバックアップセンターでも別地保管を行い障害時の復旧に対する信頼性を高める。 		

障害・災害	想定する障害・災害ケース	対策の内容	回復までの代替案	回復方法
障害	ハードウェア障害	貸出サーバ、貸出APサーバ、貸出DBサーバを多重化する。また、共有ストレージを使		
	ネットワーク障害	バックアップ回線を確保する。バックアップ回線にも同時に障害が発生した場合、情報子会社へ対応を依頼する。	紙ベース、手作業で事務処理を行い、復旧後にデータ入力を行う	情報子会社による原因調査、対策の実施
	基本ソフトウェア障害	最新のパッチを適用する。	〃	〃
	ミドルウェア障害	最新のパッチを適用する。	〃	情報子会社（インフラ部門）による原因調査、対策の実施
	オンライン・アプリケーション障害	障害発生を局所化できるように機能分割する。	〃	情報子会社（業務部門）による原因調査、対策の実施
	バッチ・アプリケーション障害	障害発生を局所化できるように機能分割する。	〃	〃
	データ障害	障害発生時に支店単位で復旧が出来るようにデータを配置する。	〃	〃
	運用ツール障害	—	—	—
災害	ビル災害	コンピュータセンターへサーバを集中配置する。バックアップセンターにてバックアップデータの別地保管を行う。	紙ベース、手作業で事務処理を行う。	バックアップデータからの回復

基本検討段階では、上段の基本方針を記述する。下段は、技術標準など標準に基づく場合は具体的に記述する。